

イタリアンライグラスとローズグラスの栽培体系試験

1. イタリアンライグラス栽培畑へのローズグラスの追播方法、時期について

田中 実・平川 孝行
(福岡県農業試験場)

TANAKA, M. and HIRAKAWA, T.

Studies on the Rotition Cropping by Italian Rye Grass
(*Lolium italicum*) and Rhodes Grass (*Chloris gayana*).

I. The Way of Establishment of Rhodes Grass Pasture on the Italian Rye Grass Field for Continuous Utilization from Spring to Summer.

イタリアンライグラスとローズグラスの栽培体系を確立するために試験を実施した。本稿ではイタリアンライグラス栽培畑へのローズグラスの播種時期、播種法、イタリアンライグラス再生防止のための除草剤使用の可否について検討したので報告する。

試験方法

試験圃場：福岡県農試内圃場(畑・砂壤土)、供試品種：イタリアンライグラス—市販種、ローズグラス—栃木産、施肥量(a当り・成分kg)：イタリアンライグラス—基肥；堆肥 100kg, N. 1.0, P₂O₅. 1.0, K₂O. 1.0, 追肥；N. 0.5, K₂O. 0.5を各刈取り後と早春に施用。ローズグラスはイタリアンライグラスに同じただし堆肥は施用せず。試験処理：1. ローズグラスの播種期；a. 5月1日, b. 5月15日, c. 6月1日, d. 6月15日。2. 播種法；a. 散播, b. 条播(条間45cm)。3. イタリアンライグラス刈取り後の除草剤処理；a. 処理, b. 無処理, 除草剤はパラコート製剤24%液をa当り40g散布。

試験結果

1. ローズグラスの播種期

5月1日、5月15日播種区はイタリアンライグラスは2回刈り、6月1日、6月15日播種区は3回刈りになった。イタリアンライグラスの収量は6月播種区が5月播種区より多収であった。ローズグラスが収量構成に加わるのはイタリアンライグラスの再生力が低下する6月下旬からであった。収量は条播区では播種期が早いほど多収で、散播区では6月播種が多収。

2. ローズグラスの播種法

条播区は播種溝を作り、覆土したため、不耕起、鎮圧の散播区より発芽は早く、発芽勢もまさった。散播区は初期生育時に根部の伸長が悪く、乾燥時に萎凋するなど、生育は遅延した。ローズグラスの収量は5月1日播種条播区が刈取り回数が他より1回多い6回刈りで多収であった他は、いずれも散播区がまさった。

3. 除草剤の効果

イタリアンライグラスの再生防止のための除草剤の効果は顕著であった。またローズグラスの発芽、生育に悪影響はみられなかった。ローズグラスの収量は、散播区、条播区とも、処理区が多収になった。

総 括

イタリアンライグラス—ローズグラス体系ではローズグラスの播種適期とイタリアンライグラスの生育最盛期が重なる。本試験ではイタリアンライグラスで最高収量をあげた後ローズグラスを散播で追播するが有利と思われる。除草剤の使用は平衡生産の点で検討の要があり、イタリアンライグラス早生品種の利用も考えられる。栽培管理の面ではローズグラス追播後第1回目の施肥時期、量および両草種の植生交代時の雑草侵入について検討の必要がある。

